



京機短信

KEIKI short letter

No.350 2021.02.05

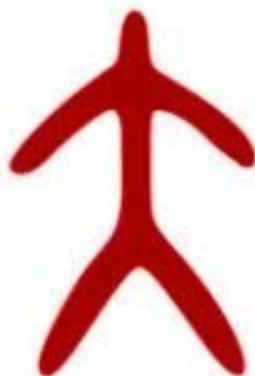
京機会(京都大学機械系同窓会) tel. & fax. 075-383-3713

E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp

URL: <http://www.keikikai.jp> 編集責任者 吉田英生

目次

- ・ series わたしの仕事 (26)ヤマハ株式会社……松田秀人 (pp. 2-5)
- ・ 学生フォーミュラの裏側から……清水良祐 (pp. 6-10)
- ・ グラビア 2021年の節分は二重の意味で特異点…… (p. 11)
日は ふたつ昇る! ?…… (p. 12)
- ・ ミステリーでも京都はすごい——西村京太郎、山村美紗、綾辻行人……吉田英生 (p. 13)
- ・ 液晶プロジェクター30年……吉田英生 (pp. 14-15)
- ・ **COFFEE BREAK @Zoom**のご案内……米田奈生、清水桜子 (pp. 16-17)



大は象形文字で、手足を左右に広げた大きい人の姿を正面から見た形
大文字・大原・大根



2017年1月17日 (火)



雪の三千院 大根焚きと石仏たち

毎年2月の初午(はつうま)の前後に大根焚きの無料接待があります。

金色不動堂に祀られている「出世金色不動明王」のご加護とご利益をいただけるよう、特別祈禱をした大根だそうです。

2017年2月17日(金) ©京都を歩くアルバム <http://kyoto-albumwalking2.cocolog-nifty.com/>

わたしの仕事 (26) ヤマハ株式会社

松田秀人 (H15/2003卒)



1 はじめに

恩師の吉田先生より寄稿のお声掛けをいただきましたので、僭越ながら仕事の紹介をさせていただきます。学生時代は、学部、修士ともに熱システム工学研究室（当時）に所属し、吉田先生、岩井先生のもとで、直接的には齋藤先生にご指導いただいて学ばせていただきました。2005年に修士課程を修了してヤマハ株式会社に就職し、今年度で勤務16年目になります。オートバイの話かな、と興味を持ってくださった方には申し訳ありませんが、楽器の方のヤマハの話になります。楽器メーカーの仕事の面白さなどを少しでもお伝えできればと思います。

2 ヤマハ株式会社について

ヤマハ株式会社は、1887年創業の世界最大の総合楽器メーカーです。アコースティック楽器やデジタル楽器をはじめ、業務用音響機器（PA機器）、オーディオ機器、半導体や自動車用パーツを扱う部品事業に至るまで、幅広く事業を展開しています。ちなみに、オートバイのヤマハ発動機は、1955年に当時の二輪部門が分離独立してできた会社で、現在でも会社間の交流が盛んです。

事業の内訳としては、2020年3月期の数字¹⁾で、売上収益4142億円のうち、主力の楽器が65%、音響機器が28%を占めています。海外比率は海外が70%、国内が30%です。近年の話題だと、2019年のNHK紅白歌合戦に出場したAI美空ひばりの歌声合成技術「VOCALOID: AI」や、2017年度のグッドデザイン賞で大賞を受賞したカジュアル管楽器「Venova」などが挙げられます。

主力である楽器事業について、もう少し説明しておきます。グローバルシェアの数字¹⁾を見ると、ヤマハは楽器全体で27%、ピアノ39%、電子ピアノ50%、管楽器31%など、高いシェアを有しています。しかしながら、各楽器事業が必ずしもその業界でNo.1だとは言いきれないのが実情です。特にアコースティック楽器では、ピアノにせよ管楽器にせよギターにせよ、多くの楽器の、特にハイエンドモデルにおいて強力な競合メーカーが存在しています。弊社は様々な楽器を取り扱っているため、会社として総合優勝できてはいますが、それぞれの業界でのNo.1を目指して日々挑戦し続けている状況です。

1) ヤマハ株式会社「ヤマハグループ 統合報告書 2020」より

3 仕事について（1）楽器の研究

私は現在、研究開発部門で楽器の研究開発に従事しています。テーマ例としては、楽器に使われる材料の研究、楽器を改良するための構造の研究、世の中の技術を製品に応用する研究などがあります。「より性能の高い製品を開発する」、「時代に即した新しい価値を世の中に提供する」といった目的のために研究開発をする点は、他の多くのメーカーの研究開発部門と同じだと思います。

では楽器ならではの特徴は何かと言え、それは何と言っても「音」が性能の主役であり、それが人の「感性」によって評価される点だと思います。この特徴によって楽器の研究は難しく、そして同時に面白いものとなります。音の評価においては、強度が上がればよい、省エネ性能が上がればよい、といった評価指標を設けるのは容易ではありません。人それぞれに様々な音の感じ方がある中で、目指すべき音の意識を関係者と共有するだけでも、曖昧さが生じて難しくなりがちです。しかしそれは、それだけ音が多く、多くの情報を含み、人の感性に訴えかけるといふことの表れでもあり、そうした奥深さはそのまま、研究のやりがいや乗り越えたときの達成感に繋がっていると感じています。

就職活動時、志望動機の1つはこの楽器の奥深さでした。当時の私は、「ピアノやバイオリンは何百年も歴史のある楽器だから、ほとんどのことは科学的に解明されているのでは？」と想过いましたが、先輩社員の方から「まだまだ解明できてない部分がたくさんある」という話をきいて、心を惹かれました。そして実際に楽器の研究に取り組んでみると、想像以上に多くのこ



弊社企業ミュージアム「イノベーションロード」にて

とが解明されていなくて驚きます。さらに言えば、自分がこれまで明らかにできたこともまだほんの少しです。道のりは長く終わりは見えませんが、探求し続けてもなかなか解明が進まないこの奥深さのおかげで、飽きることなく情熱を持って仕事に取り組めていられるのだと思います。

4 仕事について（2）科学的にコントロールする

楽器の研究開発のうち、私が長らく取り組んでいるテーマは、「アコースティックギターの音を科学的にコントロールする」というものです。アコースティックギターの伝

統的な開発プロセスは、製作者の感性や経験に従って楽器の仕様を変えて試作することを繰り返す、という方法です。しかしそれでは、得られた経験を他の人に共有して引き継ぐことが難しく、組織として技術を高めていくことも難しくなってしまいます。それに対して、科学的な開発プロセスとは、データや理論に基づいて進める方法です。ギターを計測、分析して仮説を立てたり、仕様変更による効果をシミュレーション上で予測したりしながら開発を進めます。これによって、知見を蓄積し、技術を築き上げていくことができるようになります。

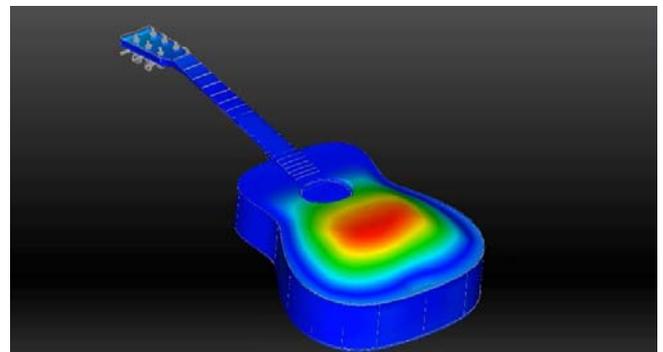


ミュージアムには私の研究成果も展示されています

私が入社した当時、この科学的な開発はそれほど盛んには行われていませんでしたが、近年のコンピュータ性能の向上やシミュレーションツールの普及といった時代の流れに乗って少しずつ成果を積み上げてきた結果、今やヤマハにおけるギターの研究開発ではそれが当たり前になってきました。

アコースティック楽器全般の設計手法については、文献に当たってもそれほど多くの情報はありません。また、弊社の会社規模においては、楽器ごとに対象とする物理現象や必要な要素技術が異なることもあり、1つ1つの楽器の研究に携わる人数は多くありません。そのため、それを自ら開拓していく必要があり、限られた人数でのDIYのような泥臭いプロセスも多くなりますが、パイオニア気分を味わいながら、日々地道な活動を続けています。

それでもまだまだ解明できていないことばかりです。ヤマハのアコースティックギター事業は、販売本数は全世界No.1を達成していますが、普及価格帯でのシェアは高いものの、高価格帯のシェア拡大が課題です。研究を通して、より多くの要素を科学的にコントロールする技術を確立することで、どこにも負けないギターを開発すること、また、それができる体制を築いていくことが、今の私の目標です。



アコースティックギターのシミュレーション結果例

5 その他 アーティスト評価と海外経験

楽器研究におけるハイライトの1つ、試作品のアーティスト評価についてご紹介しておきます。研究開発プロセスの中でも最も楽しい瞬間であり、緊張する瞬間でもあります。アーティストを会社に招いて評価してもらうこともあれば、ライブのリハーサル現場に赴いて評価してもらうこともありますし、日本だけでなく、拠点のあるロサンゼルスなど海外で行うこともあります。実際に、数年かけて開発した試作品をロサンゼルスの拠点で評価したことがあります。全体としては良い評価も厳しい意見もあった中、えらく気に入ってくださったアーティストが1名いました。試奏時は、その音の良さについて様々な言葉で表現していただき、楽しそうに長い時間弾き続けてくれて、その姿を目の当たりにした際は、他には代えがたい喜びを感じることができました。また、ライブのリハーサル現場などに赴いて評価する際には、普段の研究の世界とは雰囲気は全く異なるアーティストの現場の世界を経験できるのも、楽器研究の醍醐味の1つだと思います。

海外経験についても簡単に触れておきます。私自身は海外留学の経験はありませんが、会社から海外の大学に留学する制度は整っており、周囲にも留学経験者がちらほらいます。受け入れる方では、海外からのインターンシップ生を定期的に受け入れており、その後にはヤマハ社員として働くパターンもあります。私のチームにも海外からのメンバーが所属していたことがあり、数年間ともに仕事をしましたが、知識、文化、言語などの面で、とてもよい糧となりました。最後に、海外出張の機会について、私の経験したものを一例として挙げておくと、前述の海外拠点でのアーティスト評価に加え、世界的な楽器ショーの視察（ドイツ、中国）、国際学会への参加（カナダ）、音響機器の開発関連（ドイツ）、生産拠点での業務（中国、インドネシア）などの機会がありました。

6 おわりに

最後まで読んでいただきありがとうございました。掴みどころのない内容で伝わりづらかったかもしれませんが、ヤマハという会社や楽器研究について、少しでも興味を持っていただくきっかけとなれば幸いです。私自身も、自分の仕事について客観的に振り返るよい機会となりました。日々、目の前の仕事に追われ続けてきたように思いますが、振り返ってみると、少しは研究らしいこともできているのかなと思うことができました。こうした貴重な機会を与えていただき、心より感謝致します。どうもありがとうございました。

学生フォーミュラの裏側から

清水良祐（H19/2007卒）



1. はじめに

私は卒業後の2009年からヤマハ発動機株式会社に入社し、現在二輪車の開発業務に従事しています。

ヤマハ発動機は、静岡県磐田市に本社を置き、二輪車や船外機の製造販売を行っておりますが、学生フォーミュラ活動に対し日本における黎明期より二輪車用のエンジンを供給するとともにエンジンの分解組み立て実習といった関連する技術支援も実施しています。



写真2 大会のスポンサーボード。輸送機関連企業を中心にスポンサーがついています。

私自身、縁あって社内でのこの支援活動に携わるとともに3年間学生フォーミュラに本大会を主催する自動車技術会からの委託で学生フォーミュラ大会実行委員として日本大会の企画運営に携わってきました。学生フォーミュラの活動の裏側ではこんなことも行われているのだと言うことを知っていただければと思います。筆を執った次第です。

2. そもそも学生フォーミュラとは？

この京機短信をご覧の皆様には今更ご説明するまでもないかと思いますが、学生自身がフォーミュラ車両を設計製造し、走行性能のみならず、マーケティングやコストといったものづくりの総合力を競うものです。近年はEVも増えてきていますが、まだまだ動力にエンジンを使うチームが多いです。

学生フォーミュラで使われているエンジンはほとんど二輪車用のもので、日本大会で使用されているものは主に国内の二輪メーカーから供給されています。必ずしも二輪用でなくても良いのですが、エンジンとミッションが一体となってコンパクトに収まっていることや、排気量レギュレーションの関係から二輪用のものが都合がよいようです。

かつては多くがスポーツバイク用の高性能な4気筒のものでしたが、近年はモトクロス用の単気筒エンジンが増えています。大会会場のエコパのコースでは軽量コンパクトで低速でも扱いやすいエンジンの方が好まれるようです。最近はそのあいの子の2気筒も見られるようになりました。京都大学の学生フォーミュラチーム、KART (<http://www.formula-kart.org/index.html>) も4気筒→単気筒→2気筒と変遷してきていますね。

3. 学生フォーミュラの主催組織

この学生フォーミュラ大会は公益社団法人自動車技術会によって主催されており、その内部組織である学生フォーミュラ実行委員会によって企画運営されています。例年大会後の11月頃から翌年大会に向けて始動し、1年ごとのサイクルで活動しています。そのメンバーは各自動車、二輪車、および部品メーカーの社員やチームを抱える大学の先生が主体です。中には、ボランティアとして参画されている方もいます。

こちらは大会が始まった当初から関わってきておられるような古参の方もおられますが、徐々に学生フォーミュラのOB達も増えてきました。弊社社内での支援活動も、同じくOB達が中心となって進めてくれています。

大会も17回を数え、当時のOB達が社会の中核として活躍しているのだなあ、ということを感じます。

実行委員として参画している方は、車検、静的・動的審査、および運営の各セクションリーダー格となっており、各リーダー配下にはワーキンググループという形でこれまた各企業社員を中心にメンバーを集め、大会の運営企画や、提出されてくる書類などを審査しています。

私自身は、エコパのお膝元の掛川市在住ということもあり、(磐田市の会社本社に行くよりもよっぽどエコパの方が近いのです!)同じく地元の静岡大学の先生らとともに大会の企画運営周りのところを担当しておりました。



写真3 : 大会風景。企業、大学からのスタッフは担当業務ごとにピンクや青といったビブスをつけています。



写真4 : 静岡は比較的天候が安定しているはずなのですが、エコパ近辺は小笠山の山間に位置しており、ころころ天候が変わります。学生達は天候を読むのが大変と思いますが、運営の立場からもスケジュールのやりくりで頭を悩まされます。

4. 実行委員会の年間業務

だいたい毎年9月に実施される大会が済んだ後、後始末や反省を行って11月くらいから次年度の大会に向かって実行委員会が組織され動き出します。

運営としては、前大会の反省を踏まえて、翌年のスケジュールや、大会会場レイアウト、動線を考え始めます。

会場の設営、周辺警備といったところはある範囲は外部業者に委託するのですが、それらの業者との折衝や相談も大会の半年ほどまえから動き出し始めます。この間、大体実行委員会としては月1回ペースで、東京市ヶ谷の自動車技術会にて進捗会議が開催されます。

これとは別途、各審査のワーキンググループも実施されます。静的審査の中ではコスト審査が、作成する書類の膨大さが名物になってはいますが、それを審査する側もまた、かなりの気合いと熱意を要する仕事でそれを本業の片手間にこなしていくのですから、頭が下がります。

春先になると、必要な審査および大会運営スタッフの人数をまとめて、スポンサー企業各社へスタッフ依頼を出していきます。企業派遣スタッフは総勢数百人にもなります。弊社でも依頼を受けて人数をそろえていくのですが、候補者がいない場合に学生フォーミュラOB達にお願いして回るなどなかなか骨の折れる作業です。

大会が近づいてくるにつれ、運営としては、何度かエコパに足を運んでレイアウト等の検討やエコパ事務局との相談、また備品倉庫のチェックなどを進めてい

きます。

毎年、悩みの種となるのが海外からやってくるチームの荷物搬入出です。中国、タイ、インドネシア等のアジア各国や欧米諸国から毎年20近くのチームが参戦して来るのですが、それらのチームは車両等の荷物を運送業者に委託して運んでくれます。その荷姿は様々で、協力関係にある日本の大学で一旦受領、開梱して、レンタカーのトラックで運んでくるところもあれば、大型海貨コンテナのままトレーラーが引っ張ってきて、どうしようこれ、と途方に暮れることもあります。それにしても遠く離れた異国の地に人や荷物の輸送費を捻出するのも大変だろうに、わざわざやってきて大会参戦するエネルギーは、目を見張るものがあります。



写真5：多くの海外チームは、クレーン付きのトラックに乗せて運んでくれます。



写真6：まれに海貨コンテナそのままですべて運んでくれます。

一週間の大会期間中は、そんな海外国内含めた大学の搬入出管理や、場内動線管理、各所で勃発する小事件対応などで奔走します。

2018年大会は大会初日に台風が直撃し、過言ではなく絶体絶命のピンチだったのですが、日程を再編し急遽エコパスタジアム内を会場として使うなどして、なんとかやりくりして綱渡りで大会をやりぬきました。

企業から派遣されるスタッフ達は、近隣の掛川市や袋井市のホテルに割り振られて大会期間の約一週間で過ごすこととなります。私は、近所に住んでいるので毎日自宅から通いますが、聞く話によると困ることは、学生含め皆一様に同じよ

うな行動パターンをとるので、近隣での食事確保と、コインランドリーの順番待ちといったことがあるそうです。割り振られるホテルにもどうも当たり外れがあるようです。なお、静岡名物のハンバーグレ스토랑のさわやかには大会期間中はスタッフ、学生含めた関係者で混み合っています。

大会が終わると学生はもちろんですが、社会人の我々も燃え尽きたようになります。

特に私は日常業務がデスクワーク主体なものですから、年間で最も運動する期間と言っても過言ではありません。ただ、会社から派遣されてくるスタッフも大学の先生も皆生き生きと働いているのがいつも印象的です。

日常の業務から離れて、ライバル関係にある会社、業務では全く関わらない会社、それに大学の教授の先生も一緒になって将来の輸送機業界を担う人材達のために一致団結する、ということがそうさせているのだと心底思います。

そして、大会が済んで一息つくと、また次の年度の大会に向けて動き始めます。

5. おわりに

さて、COVID-19の猛威が吹き荒れた2020年、学生フォーミュラ日本大会も中止とせざるを得なくなりました。学生達は目標を失うばかりか、大学への入構すら制限され、厳しい時間を過ごしてきたと思います。まだこの先の情勢がどうなっていくか、まだ分からなくはありますが、2021年大会の開催に向け大会要項が発表になるなど準備が進められています。

私は、任期満了により大会実行委員会からは離れることにはなりますが、輸送機業界の一員として、そして何より学生フォーミュラの一応援者として、エールを送っていきたいと思います。

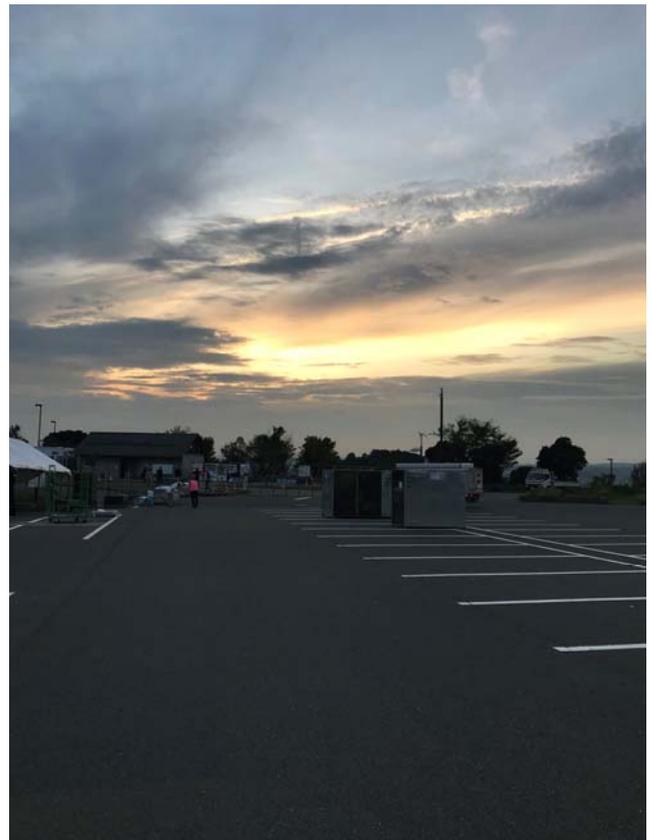


写真7：撤収風景。一週間ぶりにエコパ駐車場に静寂が訪れます。ようやく終わる疲労感とやりきった満足感の混じり合う個人的に好きな瞬間です。

グラビア

2021年の節分は二重の意味で特異点

——124年ぶりの2月2日、出店の全くない吉田神社



2021年2月2日



2020年2月3日

グラビア

日は ふたつ昇る！？

どっちが本当のお日さま？



2021年1月29日7時9分 桂キャンパスC3棟より

ヒント 少し前の7時2分は以下のようでした。



ミステリーでも**京都**はすごい——西村京太郎、山村美紗、綾辻行人

編集人 吉田英生 (S53/1978卒)

外出自粛の中、編集人はミステリーについて大して詳しい訳でもないのですが、最近の投稿が少ないこともあり、京都にまつわる話題をお届けしたいと思います。

その前に、イギリスから“ミステリーの女王”アガサ・クリスティー(1890～1976)の自薦十選は、数藤康雄氏(アガサ・クリスティー百科事典作品・登場人物・アイテム・演劇・映像のすべて、(2004)早川書房)によると、以下のとおりです。

最初の選出は小規模なもので、結果にはそれほどほどの意義はないのだが、重要なことは、翌年その結果をクリスティーに知らせ、クリスティー自選ベストテンを聞き出せたことである。クリスティーは「その時どきの気分で作品は変わる」としながらも、以下のベストテンを披露した(ただし順位は無し)。『そして誰もいなくなった』『アクロイド殺し』『オリエント急行の殺人』『予告殺人』『火曜クラブ』『ゼロ時間へ』『終りなき夜に生まれつく』『ねじれた家』『無実はさいなむ』『動く指』一般のミステリ・ファンからはあまり評価されていない『終りなき夜に生まれつく』や『無実はさいなむ』を挙げていることには、多いに注目すべきだろう。

『そして誰もいなくなった、And Then There Were None(1939)』は名作中の名作ですよね。これをベースとして『殺しの双曲線(1971)』を書いた西村京太郎さん(1930～)と『十角館の殺人(1987)』を書いた綾辻行人さん(1960～)の対談では以下のようなやりとりがあります(西村京太郎、新版 名探偵なんかこわくない(2006)講談社；綾辻氏の作品の方が後出なのに、以下で“自分の『十角館の殺人』と相通じる点がいくつも見つかって”という表現は、少し違和感ありますが)。

綾辻 『殺しの双曲線』は最近久しぶりに読み直してみたんですが、やはり傑作だと思いました。クリスティーの『そして誰もいなくなった』への挑戦、ですよ。閉鎖された状況の中で連続殺人が進行する、いわゆる吹雪の山荘もの。自分の『十角館の殺人』と相通じる点がいくつも見つかって、今さらながら驚いたりもしました。

西村 クリスティーがすごいのは、彼女の作った作品の枠組みかどこでも通用するってことなんだよ。ある種のパターンを作り上げてしまった。舞台がイギリスでも日本でも、どこでも使える。

綾辻さんは京大教育学部卒で推理小説研究会出身。一方、これまで超人的にも600を超える作品を世に出している西村さんは1980～1996年の間、京都在住。そして、京都が生んだ“日本のアガサ・クリスティー”山村美紗⁽¹⁾⁽²⁾さん(1931～1996、作品数は360)が西村さんにファンレターを送ったことがきっかけで、お二人はその後、産寧坂そばの大きな旅館を共同で買い取り、本館と別館とが鍵付きのドアのある廊下で繋がっていたそうですね⁽³⁾；「母と西村先生の関係は、ライバルであり、戦友であり、よき理解者同士だったのだと思います」と娘の山村紅葉さんは語っています⁽⁴⁾。

西村京太郎さん旧宅	山村美紗さん旧宅

(1) 例えば、山村紅葉さんが選ぶ山村美紗「京都ミステリー」傑作長編は以下：京都嵯峨野殺人事件(1985.8)、京都不倫旅行殺人事件(1985.10)、京都茶道家元殺人事件(1987.2) (2) 山村紅葉、京都ミステリーの現場にご一緒しましょう(2015)PHP研究所 (3) <http://mainichi.jp/sp/shikou/46/01.html> 嗜好と文化 vol.46 西村京太郎 (2018.4)毎日新聞 (4) 山村紅葉、おきばりやす (2001) 双葉社

液晶プロジェクター—30年

編集人 吉田英生 (S53/1978卒)

今から30年前の1991年1月17日(木)曇りのち雨、湾岸戦争が始まった日、私は東京駅6:36発の「のぞみ」で京都に向かっていました(日記より)。指定席は取ったものの、大きなジュラルミン製の箱を脇におくスペースがなく、やむを得ず京都駅に着くまでデッキに立っていました。向かう先は京大会館(現在の京都大学文書保存館 <http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>)。というのも、当時「エネルギー変換と高効率利用、研究代表者: 西川禎一京大教授(1987-1992、次ページに組織図)」で、A班、B班、C班、D班が全国組織され、私はD班班長の越後亮三東工大教授の研究室に所属していたため、D班幹事として年に一度の合同研究発表会の会場準備・運営に当たったのです。

ジュラルミンの箱の中は液晶プロジェクター、電話帳で都内のレンタルショップを探して八王子にようやく見つけたM店で、都内から車で甲州街道を2時間かけて往復して借りたものでした。1990年ごろ、それまでのプレゼンテーション用ツールであったスライド映写機やOHP (overhead projector) に替わるものとして液晶プロジェクター (https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieiej/33/12/33_893/pdf-char/en) が出回り始めたばかりで、大学にもまだほとんどなかったのです。といっても、このプロジェクターを借りた目的はビデオ映写のためでした。そのビデオが京大会館のスクリーンに大きく映し出されたとき「ええもんができましたなあ♪」という声が聞かれました。



世界初の液晶映像プロジェクター (1989) https://corporate.jp.sharp/info/history/only_one/

その後、Microsoft PowerPointと組み合わせて誰もがプレゼンテーションするようになったのは2000年以降と記憶します。昨年はzoomなどによるリモート・プレゼンテーションが当たり前になりました。30年後はどのようなになっているのでしょうか？

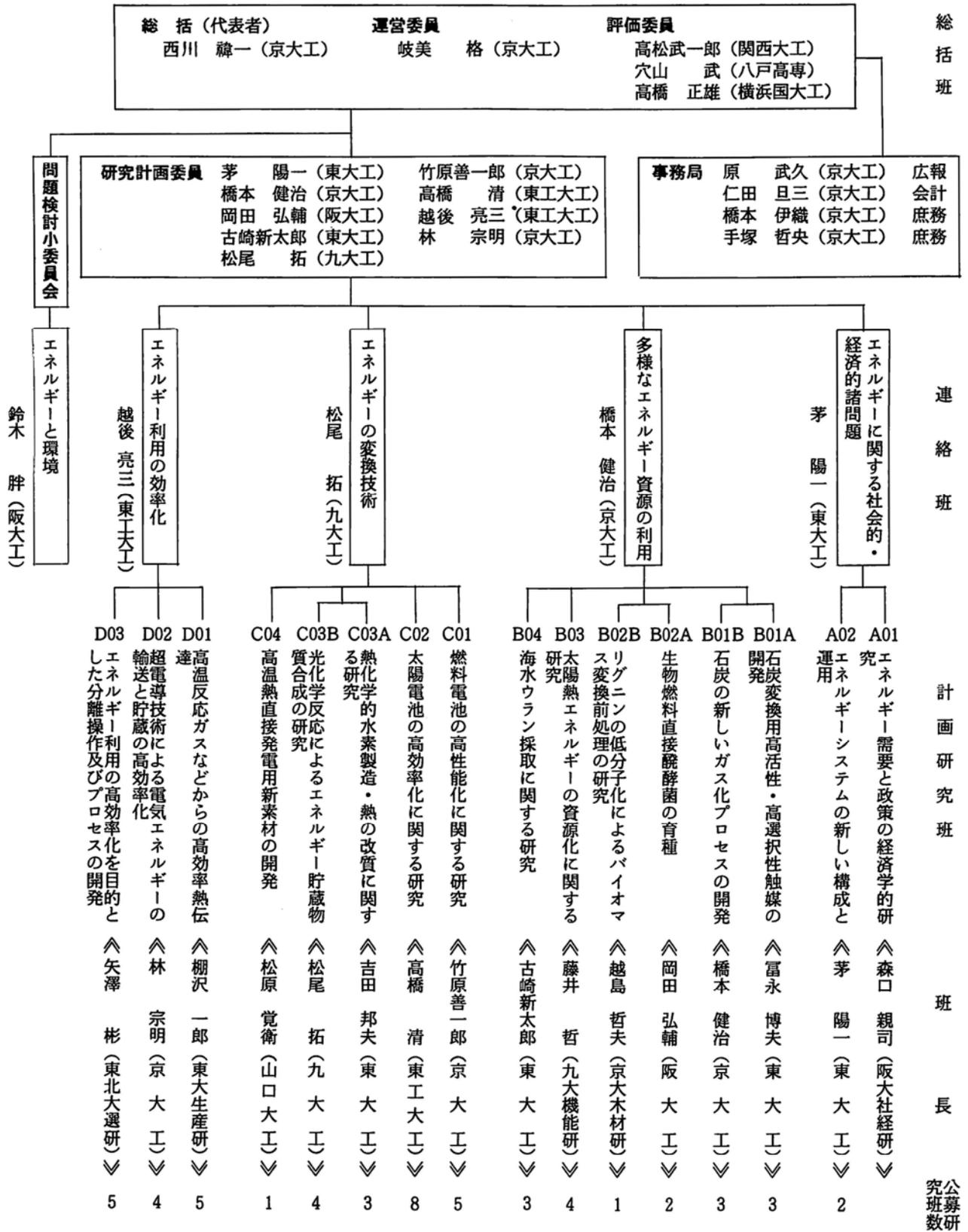


図-1 研究組織の概要

エネルギー・資源、9巻、5号 (1988)より。なお、エネルギーに関する重点領域研究は、このあと「エクセルギー再生産の学理、研究代表者：吉田邦夫東大教授 (1993-1997)、堤敦司東大助教授 (1998)」が続きましたが、それが最後となりました。

COFFEE BREAK @Zoomのご案内

米田奈生 (H29/2017卒、蓮尾研 D2)

清水桜子 (H30/2018卒、榎木研 D1)

C3 COFFEE BREAK



February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19 ☕	20
21	22	23	24	25	26 ☕	27
28						



15:00-16:00

@Zoom



☕ : 開催日

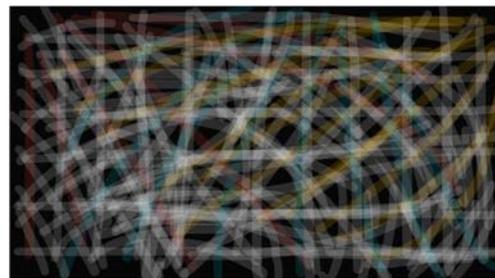


こんにちは。卒論、修論生は提出から発表準備に追われる2月となりました。1月はずいぶん（やっと？）緊急事態宣言も発令され、研究室や実験室に行くことは「必要」「火急」と言いつつ、内に外になんとか追い込んできたことと思います。引き続き、出来るかぎりの感染対策をして拡大を抑えつつ、健やかに学問・研究に励んでいきたいと思っております。さて、そんな2月のCoffee Breakは、前半はお休みして、19日と26日の金曜日15時～16時に同じくZoomにて開催します。息抜きに、ぜひぜひお越しください。

今月の写真は、教員のHさんからご提供いただいた北海道の動物たちの写真です。年明け早々のCoffee Breakで仮想背景に設定されていたのに一目惚れしてスカウトしました。すべて2月に撮影されたものだそうです。アピールポイントは、みなさんお気づきだと思いますが、カレンダー上に留まっているシマエナガです！掲示板のシマエナガさんには少し細工をしておりますので、学内の方はぜひぜひ注目ください。

Jamboardは、主催者らによるお絵描きスペースになってきました。言葉・線画・写真を問わず、通りすがりの書き込みお待ちしております。

Coffee Break in January



<先月号出題のクイズの答え合わせ>

12月のミニゲームの答えは…「かんぱい」「だがし」「ルネ」「クロアチア」でした！個人的に、「ルネ」で「自販機がふたつあるところ」を伝達ポイントにしていたのは「なるほどそこか～」でした。また、1月のカレンダーの鳥居は、上が琵琶湖西岸の白髭神社、右下が瀬戸内海に面した明石の住吉神社でした！

Coffee Breakでは、学生・教職員・卒業生の参加・応援をお待ちしています。（コーヒーとお菓子は各自ご準備のほど……。）また、Googleカレンダーを用いた開催スケジュールの共有と、開催のリマインドメールの配信を行っています。希望する人は、coffeebreak.kyotouniv@gmail.com または [こちらのフォーム \(https://bit.ly/2A6sC6X\)](https://bit.ly/2A6sC6X) からどうぞ！

